

# 戦略的イノベーション創出推進プログラム シンポジウム

平成 26 年 12 月 2 日(火) 10:00-14:15

大手町 日経カンファレンスルーム

(東京都千代田区大手町 1-3-7 日経ビル)

## 高齢社会を豊かにする 科学・技術・システムの創成

### 開催趣旨

日本は世界に先駆けて超高齢社会に急速に向かっていますが、現時点で既に全人口の約 25% が 65 歳以上の高齢者で占められており、2055 年にはそれが 40% を超えることが予測されています。そのため、労働者人口の減少、社会保障費の増加に加え、高齢者に社会参画を可能な限り延長することが求められています。しかし、この課題に対してテクノロジーで何を解決することが望まれているかが不明なことから、大学や国の研究機関等の研究は方向性が定まらないままであり、また、マーケットを作り出せなかったことから、産業界でも本格的な取り組みが行えませんでした。

このような背景のもと、本テーマでは、高齢社会における「就業等の支援」と個人の「活動の支援」の両方を実現することを目標とし、横断的で長期にわたる「産学連携」による取り組みを行っていきます。特に高齢者個人が社会活動を行いやすくなるような支援技術を追求していきます。

その中でも、人間が知的な社会生活を送る上で重要な機能である「感覚」「脳」「運動」と、それらを結ぶ「情報循環」をうまく働かせるための支援方法を構築します。同様に、コミュニティの中で必要な生活機能である「情報獲得」「コミュニケーション」「移動」と、それらを結ぶ「情報循環」を円滑にすることを支援する方法を構築します。その支援技術として、主に、インターネットに代表されるような ICT(情報コミュニケーション技術)やロボットに代表されるような IRT(情報ロボット技術)を活かす道を確認します。

さらに、高齢化は日本ばかりでなく世界的な傾向にあることから、海外での取り組み等についても常に動向を把握し、本テーマにより創成される新しい技術・システムが将来、輸出産業などにも活かされることを期待しています。

本テーマに関係の深い研究を進められている先生方にゲスト講演をお願いし、進行中の 3 つの研究開発課題について、成果発表会を開催いたします。

- ① 高齢者の対話支援ロボット
- ② 人工知能がサポートする高齢者社会 —音声自然対話・医療介護業務支援—
- ③ 歩容映像解析と高齢者の健康管理
- ④ 高齢者の記憶と認知機能低下に対する生活支援ロボットシステムの開発
- ⑤ 高齢者の自立を支援し安全安心社会を実現する自律運転知能システム
- ⑥ 高齢者の経験・知識・技能を社会の推進力とするための ICT 基盤「高齢者クラウド」の研究開発

### プログラム オフィサー 伊福部 達 (東京大学 名誉教授)

#### 講演者 ※講演順、敬称略

- ① ゲスト講演 石黒 浩(大阪大学 教授)
- ② ゲスト講演 白石 富久  
(株式会社 アイ・ビジネスセンター 代表取締役)
- ③ ゲスト講演 八木 康史(大阪大学 教授)

#### 発表者 ※講演順、敬称略

- ④ 井上 剛伸(国立障害者リハビリテーションセンター 部長)
- 大中 慎一(日本電気株式会社 マネージャー)
- ⑤ 井上 秀雄(トヨタ自動車 主査)
- ⑥ 廣瀬 通孝(東京大学 教授)
- 小林 正明(日本 IBM スタップリサーチャー)

主催 独立行政法人 科学技術振興機構

定員 150名程度

参加費 無料

お問い合わせ

独立行政法人 科学技術振興機構 産学連携展開部 中島、千野

TEL:03-3238-7682

申し込み先 <http://sc.cyber.t.u-tokyo.ac.jp/events/2014/scsymp.html>